

## 特集：建物内で問題となるダニ類

## 巻頭言

今年最後の愚痴を言わせてください。あまりにもピントがずれ、まったく中小零細企業の状況を理解していないマスコミと行政に腹が立ったので。

先日の全国紙に、育休取得率が低いことが少子化の主な原因になっているかのような記事が掲載されていました。また育休取得が進まない理由が「仕事上でのキャリアに問題が起こり昇進に影響することも要因」と書かれていましたが、これを書いた記者は本当に少子化対策に育休取得が有効で、その進まない原因がキャリアの問題だと思っているのでしょうか。育休取得が進まない理由は簡単です。人材不足と育休時の給与減少です。育休を取得しようとするとき、もしその会社で人手の問題がなければ会社は当然快諾するでしょう。しかし、現実には人一人採用するのも、またそのコストを捻出するのもままならないのが現状です。そして、いざ取得しようとする時、給与が3割も4割もダウンしてしまっただけでは、現実的に生活がなりたちません。これが原因であり現実です。

そして、この記事に呼応するかのよう「行政の育休取得率 20%目標」などというニュースが流れたのです。以前も書きましたが、週休二日制が言われたして35年以上が経過していますが、今に至ってもそれすらままならない中小零細企業が多い中、さらなる有給5日取得や育休取得など、どのようにしたら実現できるのでしょうか。行政が率先してやるべきことではないと思います。確かに非効率な部分が多くあることも確かで、効率を上げ時間を作らなければいけないことは重々承知です。しかし中小零細の各企業だけの努力ではすでに限界に近づいています。

この問題の解決には、中小零細企業が多いという日本の社会構造も一因であり、企業の存続と効率化を図る意味で合併による規模の大型化も大変有効な対策だと思います。しかしこれは民間だけでは出来ません。国が主導して、中小零細企業の合併を誘導するような政策が絶対必要です。何とかしてくださいよ。本当に今、人材不足で大変なんですから。

(雅)

## 建物内で問題となるダニ類

気温も少しずつ下がり、すっかり秋らしい時期になってきました。暖かい時期は外に布団を干すのが当たり前に思いましたが、これからの季節は億劫になりやすいです。ところが、布団を干さずにいると布団の中のダニが爆発的に増殖するため、意外なことに秋や冬場にもダニによる被害は発生します。そこで今回のエムテックインフォメーションでは、建物内で問題となるダニ類について、対策を交えてご紹介します。

### ダニ類による被害

世界中には数万種ものダニ類が生息していますが、日本の屋内で発生するダニ類はそのうちの15種類程です。ダニ類は人間の生活環境の至る所で見られ、被害の内容も様々です。例えば、住宅やマンションなどの建物では、アレルギー被害や赤いダニによる不快感、ビルなどではネズミ由来のダニによる吸血被害、住宅や食品工場では食品内に発生して汚染する被害などが挙げられます。

### アレルギーの原因となるダニ類

一般的に、屋内に生息しているダニ類のほとんどが、ヒョウヒダニ類と呼ばれるアレルギー性疾患の原因となる種類です。温湿度が高く、埃などが多い場所を好みます。布団の中で大量に増えるのがこのヒョウヒダニ類で、実は人の生活空間の様々な場所に生息しています。

ダニの種類	ヒョウヒダニ類（チリダニ類）など
被害	ダニの体、死骸、糞を吸引することによるアレルギー性疾患
場所	寝具、じゅうたん、カーペット、畳、ソファなど
発生時期	1年中
対策	ダニが増殖しにくい温湿度（20℃以下、50%以下）となるような環境をつくる（換気、天日干し、熱風乾燥）。また、ダニアレルギー対策として、洗濯や掃除機がけも効果的。



図1 ヒョウヒダニ類  
(引用：日本ペストコントロール協会)

### 刺咬・吸血性のダニ類

ヒョウヒダニ類を餌として増殖するツメダニ類は、寝ているときに刺咬被害をもたらす代表種です。また、本来はネズミや鳥類に寄生しているダニが、人に吸血被害をもたらす場合もあります。

ダニの種類	ツメダニ類（埃由来）、イエダニ（ネズミ由来）、トリサシダニ（鳥類由来）
被害	刺咬・吸血による痒み、病原菌の伝搬（リケッチア等）
場所	カーペット、畳、ネズミや鳥類の巣
発生時期	初夏～秋頃が多い
対策	ツメダニ類は上記のヒョウヒダニ類を抑える対策が有効。 イエダニやトリサシダニは、根本的原因であるネズミ等の駆除対策が必要。緊急時はダニ用の燻煙剤などで駆除可能。



図2 ツメダニ類  
(引用：日本ペストコントロール協会)

## 不快感を与えるダニ類

春頃、ブロック塀に赤いダニがたくさん歩き回っていたり、室内の観葉植物にもダニがついていることがあります。これらのダニは直接的な被害は起こしませんが、真っ赤な外見が気持ち悪く、不快感を与えます。

ダニの種類	タカラダニ類、ハダニ類など
被害	大量発生や洗濯物への付着による不快感
場所	外壁、ブロック塀、観葉植物など
発生時期	春～夏頃
対策	駆除は不快害虫用殺虫剤を外壁などに散布する。タカラダニは人へ直接的な被害を起こさず、7月頃を過ぎると自然といなくなるため、特に問題がなければ何もしなくて良い。



図3 タカラダニ類  
(引用：日本ペストコントロール協会)

## 食品を加害するダニ類

使い掛けのお好み焼き粉を開封したまま保管しているとダニ類が発生することがあります。しかも気づかずに調理して喫食するとアナフィラキシーショックを引き起こします。欧米ではパンケーキで発生しやすいため、パンケーキシンドロームと呼ばれています。大量発生すると、粉がモゾモゾと動くように見えます。

ダニの種類	コナダニ類、ニクダニ類
被害	ホットケーキミックス、お好み焼き粉、小麦粉、鰹節などを加害。アナフィラキシーを引き起こす
発生時期	1年中
対策	使い掛けの粉は、密封容器で保存する。温度が高いと増殖しやすいため、冷蔵保存できるものは冷蔵し、早めに使用する。ダニが発生した食品は使用しない。



図4 コナダニ類  
(引用：日本ペストコントロール協会)

## ダニ類の検査方法

### <簡易検査キット>

検査キットを用いてダニアレルゲンを測定する簡易的な方法です。手軽かつ迅速に判定ができます。学校環境衛生基準では年1回の検査義務があり、それに適合した商品（マイティチェッカー等）が出ています。なお、アレルゲンを測定しているため、吸血・刺咬性のダニ類などは検出できません。

### <分離法>

ダニ類自体を分離して計数する方法です。掃除機で室内の埃ごとダニ類を吸い取り、それを振るいや食塩水で分離し、顕微鏡で計数します。検出精度が高く、吸血・刺咬性など様々なダニ類が検出できます。

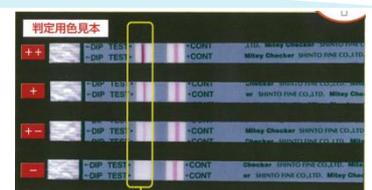


図5 簡易検査キットでの判定  
(引用：住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社)



図6 分離法の様子

ダニ類の駆除や検査を承っています。お問い合わせ下さい。

## 害虫獣紹介

### アライグマ

可愛らしい見た目から一時期ブームを巻き起こしたアライグマ。最近ではその可愛らしさとは裏腹に害獣としての側面が注目されています。

#### 生態

アライグマはアライグマ科アライグマ属の哺乳類で大きさは大人で70～90cmほどになります。もともとはカナダ南部を中心に生息していた外来生物ですが、1970年代に飼育目的で日本に輸入されました。その後、飼い主が飼育を放棄したり持ち前の学習能力の高さや器用さから自らゲージを開けて脱走したりして全国で野生化してしまい、今では日本全土に生息しています。食性は雑食で野菜や果実、魚類、昆虫類、野鳥や小型の哺乳類など様々なものを食べます。日本固有の生態系に対しても被害を与えることから「特定外来生物」に指定されています。



図 アライグマ  
*Procyon lotor*

(引用：日本ペストコントロール協会)

#### 被害

農業被害が有名ですが、小型の哺乳類も餌の対象であることから、ペットがアライグマに食べられる被害も出ています。人間への警戒心がないため家屋の屋根裏に住み着くことがあり、騒音や天井板の破損、糞尿による悪臭の原因になったりします。また、糞便は「アライグマ回虫」という回虫の媒介になっており、糞便や糞便に汚染された土を触る際には注意が必要です。その他に、狂犬病などの感染症の媒介になります。

#### 対策

アライグマは獰猛であるため近づくことと襲われる危険があること、「鳥獣保護法」により個人での捕獲はできないことから、駆除する際には専門の業者へ依頼することになります。個人でできることは、アライグマの餌となる生ゴミなどを外に置かず片付けておくことです。また、飼っている動物もアライグマの獲物になるため、外で飼育する際には食べられないよう対策が必要です。

## 食中毒情報

今月は、毒キノコやフグ毒などの自然毒を原因とした食中毒が多く発生していました。そのほとんどが、自分で採取などして持ち帰り、自宅で調理して食中毒になっています。食用と間違えて有毒なものを食べてしまったことが原因です。特にキノコ類は、有毒な物と食用を見分けるのが難しい種類が多くあります。これからの季節は、ハイキングなどでキノコ狩りをする機会が増えるため、毒キノコによる食中毒が急増します。自分で食用と正確に判断できない場合は、採って食べないようにして下さい。また、自分だけでなく、家族や知人に「渡さない」ことも大切です。

### 全国食中毒発生状況 (9/14～10/14 新聞発表分等)

原因物質	事例	感染者数
自然毒	8	16
カンピロバクター	4	15
ウエルシュ	2	166
サルモネラ	2	110
不明・その他	3	27

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

**MARUMA MITEC**  
株式会社 マルマ エムテック衛生検査所

メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本社	／ 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11 TEL：(053)464-6400 FAX：(053)465-4120	名古屋支店	／ 〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2 TEL：(0567)69-4080 FAX：(0567)69-4081
東京支店	／ 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14-402 TEL：(042)850-6454 FAX：(042)850-6456	関西支店	／ 〒658-0026 兵庫県神戸市東灘区魚崎西町 2-4-15 TEL：(078)842-6755 FAX：(078)858-6802
静岡支店	／ 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1 TEL：(054)202-0210 FAX：(054)202-0220	福岡支店	／ 〒814-0161 福岡県福岡市早良区飯倉 5-10-3-102 TEL：(092)707-7810 FAX：(092)707-7870